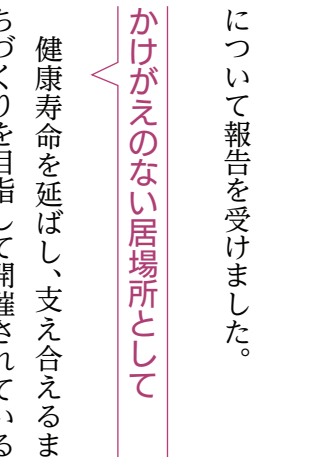
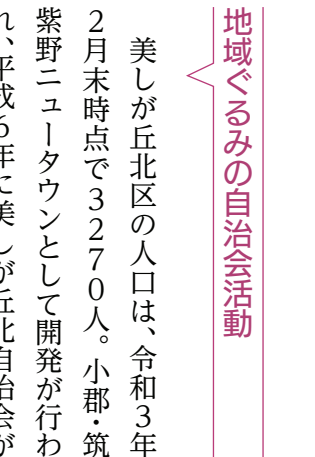


移動市長室

美しが丘北自治会 — 支え愛・美北自治会 つながろう、地域で —



地域ぐるみの自治会活動

美しが丘北区の人口は、令和3年2月末時点で3270人。小郡・筑紫野ニュータウンとして開発が行われ、平成6年に美しが丘北自治会が設立されました。

多くの地域住民の関わり、自治会活動が長年にわたって活発に行われていることが特徴的な美しが丘北自治会。今回の懇談では、その中でも大きな柱の一つである高齢者支援活動を中心に、支え合いのまちづくり

について報告を受けました。

かけがえのない居場所として

健康寿命を延ばし、支え合えるまちづくりを目指して開催されている二つの事業があります。一つは、高齢者サロン「ほっとステーション。ほほえみ」、もう一つは元気教室「楽しく元気な運動教室」です。それぞれ平成20年、平成28年に活動を開始しました。参加者も年々増加し、地域に定着した活動になっています。

通算107回目となる移動市長室を、3月13日(土)に美しが丘北公民館で開催し、美しが丘北自治会の役員等8人と懇談を行いました。



感染症の影響で開催中止を余儀なくされた昨年。地域の人からは、体力の低下や気分の落ち込みなど、集いの場を失い惜しむ声が多く聞かれました。改めて居場所づくりの必要性を実感したという役員の皆さんは、感染対策を徹底し、早期の再開に努めたそうです。



多くの人が再開を待ち望んでいた高齢者サロン・元気教室

安心のサロン運営を目指して

美しが丘北自治会の高齢者サロンは、多くの地域ボランティアが関わっています。人が集まる理由を尋ねると、「周りを巻き込む人の魅力や、活発に活動している『生涯学習の会※』など、地域デビューしやすい土壌があると思います」と役員は話します。

こうしたボランティアの成熟を受け、美しが丘北自治会では、これまで自治会の福祉委員会主催だった高齢者サロンの運営を、令和3年度からボランティアの皆さんに委託することになりました。自治会とサロンボランティアグループでパートナーシップ協定を結び、参加者がより安心して楽しめるサロンを目指すとのことです。

※地域住民の交流を目的とした、俳句や園芸など13のグループで構成される会。

地域のでつながりを深める

感染症の流行をきっかけに、地域のつながりづくりにより力を入れるようになったという美しが丘北

自治会の皆さん。手作りマスクの販売や、大学生による高齢者向けのスマートフォン講座など、地域のできることを、とさまざまな企画をしています。

現在、美しが丘北区において65歳以上の人が占める割合(高齢化率)は、市全体の平均よりも低く推移しています。しかし、自治会長の鍋嶋明さんは、将来的な高齢化は避けられない、と見通しており、今後について「筑紫南コミュニティなど諸機関との連携を図り、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを目指していきます」と語りました。

参加者の感想

・美しが丘北の魅力を十二分にお伝えできたと思います。市長からたくさん言葉をいただいていたのが良かったです。

・市長と直接お会いして、市長を身近に感じる事ができました。

藤田市長の一言

美しが丘北自治会の皆様の活動をお話いただき、たくさん仲間を増やしながら、活発に活動を続けられていて驚きました。全ての人がいろいろな創意工夫をなさって、これだけまとまりのあるまちづくりをされているその熱意に感銘を受けました。

この良さを市に持ち帰り、行政の中に取り入れさせていただきたいと思えます。皆様方の活動に心から深く感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

